

## はじめに

拠点リーダー 熊井 英水

私共のグローバル COE プログラム「クロマグロ等の養殖科学の国際教育研究拠点」は平成 20 年度に学際・複合・新領域分野に申請して採択されました。

本プログラムはポスト 21 世紀 COE プログラム(平成 15 年度採択)として位置づけられており、水産研究所、大学院農学研究科水産学専攻、応用化学専攻の教員 23 名により構成されております。

本学水産研究所は 62 年の歴史をもち、農学部及び大学院農学研究科との研究協力のもとに魚類の養殖技術の確立に向けた実学研究を続けて参りました。主な業績としましては現在、世界に拡大されている魚類の生簀網養殖法の開発や天然に依存していた魚類養殖用種苗を人工種苗に切り替え資源の保護・増強に貢献してきました。即ち、マダイ種苗の選抜育種と量産化、その他ヒラメ、シマアジ、インダイ、カンパチ、クエなど主要海産魚の人工種苗化に導くなど海産魚類養殖産業化技術のパイオニアとして長年、研鑽を積んできました。このグループ組織は海産魚類養殖に関する日本

は勿論のこと、世界でも例をみない随一の教育・研究機関であり、水産養殖産業の基礎・発展を支えてきた実績をもっています。

本グローバル COE プログラムではこれらの実績をもとに最近、その資源問題で絶滅が危惧されるマグロ類、特にクロマグロの高度養殖技術の確立と人工種苗の量産による産業化を重点課題とする他、熱帯、亜熱帯、温帯域の重要養殖魚についても、養殖システム、環境保全システム、食品加工システムの構築などの自然科学、養殖経済、流通、消費を対象とする社会科学での課題を融合させることによって、世界唯一の総合的かつ実践的な養殖科学の国際的教育研究拠点の形成を目指しております。

ここにこれまで 2 年間の成果を纏め中間報告といたします。

今後共本プログラムに対しまして何卒御支援、御鞭撻をたまわりますよう切に御願ひ申し上げます次第であります。